

立ち読み版

連載 インタビュー

Umano! #18



昭和女子大学 理事長・総長

ばんどう まりこ

坂東 真理子 さん

1946年、富山県出身。東京大学を卒業後、1969年に総理府入省。婦人問題担当室(現在の男女共同参画室)が発足した当時、最年少担当官として参加し、日本初の『婦人白書』の執筆を担当。ハーバード大学留学後、統計局消費統計課長、埼玉県副知事、ブリスベン総領事(女性初の総領事)、内閣府男女共同参画局長などを経て、2003年に退官。同年、米国ビジネスウィーク誌「Stars of Asia」受賞。その後は昭和女子大学の教授、理事、女性文化研究所長を経て、2017年に学長に就任。現在は同大学の理事長・総長を務める。著書にベストセラーの『女性の品格』や『女性リーダー4.0 新時代のキャリア術』など50冊以上。最新作『70歳のたしなみ』もヒット中。

【写真】 永友 ヒロミ

# ベストセラー『女性の品格』の著者が提案するグローバル人材の育成

【取材・監修】 原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役・高知大学客員教授・成城大学非常勤講師。中小企業診断士。早稲田大学法学部卒業後、大手メーカー、株式会社リクルートでの勤務を経て、独立。産学公個に対し、採用・育成・人事制度構築など、人材関係の幅広い提案を行う。著書に『採用水河期』(日本経済新聞出版社)、『優れた企業は日本流』(扶桑社)、『インタビューの教科書』(同友館)など多数。

HARA'S BEFORE

長く人材関係の仕事をしてきた私にとって、ベストセラー『女性の品格』をはじめ、坂東さんの数々の著書は参考になるというより、必読の書であった。大所高所からの視点を持ちながらも、人間一人ひとりの生活へのきめ細かな観察眼も併せ持つその文章は、生き方を模索する一個人としても、必読の書だと思う。

官僚としては、特に女性政策において多大な業績を残してきた人でもある。ベストセラー作家であり、大学経営でも活躍する坂東さんのベースとなっている官庁や行政、教育界での経験、そこから導かれる見識に迫ってみたい。



Umano! | Mariko Bando

くれました。私にとっては本を書くことが、一番安らぐ、自分らしい時間を過ごしている気がするんです。

官僚時代にはポストが変わるたびに、それまでの仕事の集大成の本を書いてきたんです。公務員をしながら本を書いていると、「あいつは仕事を全力でやっていないんじゃないか」と言われてきました(笑)。今のように副業兼業が認められていない時代で、職務専念義務というのがありましたので、週末や平日の夜に執筆していました。『女性の品格』は33冊目の本です。大学に来て、少し時間ができたときに書いたものです。

原：お書きになられていて、手応えや影響を感じる瞬間はどんなときですか。

坂東：読んでくださっている方とお目にかかれるのが最高にうれしいですね。お母さんが読んでいたり、おばあさんが読んで勧めてくれたという学生も大学を受験してくれます。「心が落ち込んだときに読み返すんですよ」とボロボロの本を見せてくださったりすると、作家冥利に尽きます。

一番最初の出版は、1978年の第1回の『婦人白書』です。当時は「女性」ではなくて「婦人」と言っていたんですが、その担当として執筆しました。それがちょっと話題になって、出

## 「パラレルワーク」としての本の執筆

原：最新作『70歳のたしなみ』を拝読しました。高齢化日本の個人の指針になる本だと思います。

坂東：これまで1年に1冊、2冊とせっせと書いてきました。売れていなくても書き続けていたから、神様が10年ぶりに、『70歳のたしなみ』をまたたくさんの人に読んでもらえる本にして

続きは雑誌で